

第6学年1組 学級活動（1）指導案

2026年1月22日（木）5校時

児童数 28名

指導者 永樂 俊樹

1 議題 卒業プロジェクト第1弾 受け取ったバトンを未来へつなごう (ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決)

2 議題選定の理由

○ 本学級の児童は、素直で何事にも前向きに取り組み、活動を楽しもうとする姿が多く見られる。委員会活動や縦割り活動、クラブ活動、全校朝会での準備・片付けなどにおいて、下級生に自然と声をかけながら、全校のために自分の役割を果たそうとする姿が育ってきており、目立たない場面でも「誰かのために動く」経験を積み重ねてきたことは、本学級の大きな強みである。一方で、話し合い活動では、自分の思いが先行し、相手の立場や全体への影響を十分に考えきれず、自分の考えを押し通そうしてしまう場面も見られる。そこで、話し合う論点を明確にし、友だちの意見の意図や気持ちを踏まえながら伝え方を工夫し、合意形成を図ろうとする態度をさらに育てていく必要がある。

○ 本議題は、6年生としてこれまで担ってきた委員会活動やクラブ活動、他学年との関わり、全校朝会での準備・片付けなど、いわゆる「縁の下の力持ち」としての役割をふり返り、それらを全校のためにどのような形で残していくことができるかを話し合うことをねらいとして設定した。これまでの活動を通して、6年生が当たり前のように行ってきた行動が、多くの人を支えていたことに気付くとともに、卒業後も継続していくためには工夫が必要であるという課題意識も生まれている。そこで本議題では、これまでの経験をもとに課題を整理し、「何を」「なぜ」「どのように」残すのかを明確にしながら、全校生にとって意味のある形を探る課題解決型の話し合いを行う。

○ 話合い活動では、「全校のために残す」という目的意識を共有し、委員会活動や他学年との関わりなど、自分の体験を根拠にして意見を出すとともに、友だちの意見の背景や思いを理解しながら話し合いを深めていくことを大切にしたい。また、意見の違いを対立として捉えるのではなく、つなげたり折り合いをつけたりしながら、より良い案へとまとめていく力を育てたい。話し合いの結果を「自分たちで決めたこと」として受け止め、下級生に伝え、実践につなげようとする態度を育成することで、自治的な学校づくりの一端を担う6年生としての自覚をより一層高めていきたい。

3 目指す子どもの姿

- これまでの委員会活動や他学年との関わりをふり返り、全校のために何をどのように残すのかという課題意識をもって話し合う。自分の体験を根拠に意見を出したり、友だちの提案の意図を考えたりしながら、意見をつなげて合意形成を図ろうとすることができる。
- 話しいで決まったことを6年生の決定として受け止め、下級生を意識して行動する。自分の役割を果たし、声をかけ合いながら、6年生が担ってきた取組を行動で示し、主体的に社会参画しようとすることができる。

4 評価規準

より良い生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をより良くしようとする態度
委員会活動や他学年との関わり、全校朝会の準備など、これまでの6年生としての取組を振り返り、全校のために残す内容や方法について理解している。	全校の立場を意識しながら、自分の体験を根拠に考えを伝え、友だちの意見をつなげたり高めたりして、よりよい形を判断し、合意形成を図っている。	話しいで決まったことを自分たちの決定として受け止め、下級生のために役割を果たそうとし、主体的に行動している。

5 事前の活動

日時	児童の活動（☆全員★計画委員会）	指導上の留意点・支援
1月9日（金） 休み時間	★議題を選定し、決定する。 話し合いの日時を決定する。	学校全体を巻き込み、よりよい人間関係づくりができる話し合いになることを観点に議題選定する。
1月13日（火） 休み時間	★活動計画（提案理由・めあて・役割）を作成し、話し合いの見通しを立てる。	集会までに何を話し合い、準備しなければいけないか共有できるようにする。
1月15日（木） 終わりの会	☆自分の考えを学級会ノートに書き、司会グループに提出する。	活動をするにあたって、見通しをもつために準備しなければいけないことを具体的に書く。
1月20日（火） 休み時間	★意見を分類し、話し合いの論点を予想して、柱を決める。	考えを深めるために何について話し合うべきか、柱立てをする。

6 本時の狙い

- ・友達の意見を共有しながら、自分達のこれまでの取組について具体的なイメージをもち、全校のため
に何をどのように残すのかを話し合い、みんなが納得できる形へと合意形成を図ることができる。

7 児童の活動計画（別紙）

8 本時の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
話合いのめあてを確認する。 決まっていることを確認する。	話合いについて、一人一人のめあても確認する。	
話合いをする 柱1 全校のために何をどのように残すのか 出し合いながら、深める 給食 ・毎日の給食で成長してきたことを伝えたい。 ・楽しく食べる6年生らしさを残したい。 委員会活動 ・学校のために動いてきたことを知ってほしい。 ・目立たない仕事も大切だと伝えたい。 縦割り班活動 ・下級生を思って関わってきたことを残したい。 ・6年生としての成長を伝えたい。 まとめる	出し合いながら、深める ・友達の考えを聞き、具体的なイメージを共有し、学級にとってより価値のあるものにまとめるよう助言する。 まとめる ・司会のまとめに対して合意できないことがないかフロアに確認し、全員の意思表示を待ち、合意形成をする。 ・どのようにして決まったかをまとめて発言するように助言する。	【主】 話合いの観点が全員に分かるように話合いを進めようとしている。（司会） 【思・判・表】 それぞれの考えの良さ、問題点を受け止めて、自分の考えを深め広めている。（フロアの発表） 【知・技】 話し合ったことが活かされるような結論を提案している。（司会）
柱2 役割 決まったことの確認		
話合いをふり返る。 ①司会グループ ②フロア	学級にとってより良いものを考えたか、多くの意見で合意形成につなげることができたかについてふり返るよう助言する。	【主】 自分や友達の良さを見つけ、自分のめあてをふり返ろうとしている。（ノート・発表）
教師の話を聞く。	学級全体のことを視野に入れ、具体的に理由づけした発言について価値づける。意見を引き出し、整理しながら話合いを進行した司会グループを評価する。	

9. 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
1月26日 ～2月6日	集会活動	役割をやり遂げることができるように支援する。	・6年生としてこれまで大切にしてきた取組や思いを、動画を通して全校に分かりやすく伝えようとしている。 ・下級生や全校のことを考え、「これからにつなげたい思い」を言葉や態度で示そうとしている。